

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：大原美術館の80歳をお祝いしよう！プロジェクト

事業者名：財団法人大原美術館

住所：岡山県倉敷市中央1-1-15

TEL：086-422-0005

FAX：086-427-3677

HPアドレス：<http://www.ohara.or.jp>

連携事業者名：岡山大学、倉敷芸術科学大学、就実大学・

就実短期大学、倉敷市立倉敷西小学校、

倉敷市立倉敷東小学校、若竹の園

会場：倉敷市立倉敷西小学校、倉敷市立倉敷東小学校、

若竹の園、大原美術館

事業期間：平成22年5月20日～平成23年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

大原美術館は、①作品、そしてコレクション形成史の見直し ②多（他）文化理解の装置としての機能を磨く ③地域との連携 ④アーティスト支援 ⑤教育普及活動の本格化 を行うことを使命とする。本事業は、③に基づき、地域の大学・ボランティアなどの地域の人々、地域の小学校、保育園と連携してワークショップを実施するというプロジェクトである。また、④の使命に基づき、アーティストとともに活動を行い、さらに⑤を目指して、子どもたちにワークショップを通して多くの人たちでモノを作る楽しみを知ってもらい、ボランティアおよび大学生には、この企画を運営することで、多くの人々と交流し、そしてアートの持つ力を認識し、地域文化のリーダーとなってもらふことを目指した。

2. 企画内容

①事業目的

大原美術館は、1930年の開館以来、日本有数の観光地に位置し、多くの人々に愛され、親しまれてきた。特に、私立美術館には珍しく、当初から教育を目的として作品の公開を目指しており、現在も倉敷市および岡山県域から多くの学生が来館する。今年、80年という節目を迎えるにあたり、再び創設者大原孫三郎の「人を育て、未来につなげる」という理念にたちかえり、より一層地域の人々との連携を深め、美術の楽しみを伝え、その中で倉敷という地域の文化活動のリーダーとなるべき人々を育成することを目的に、本事業を行った。

②事業概要

「大原美術館の80歳の誕生日を祝う」ことをテーマに、大原美術館の目の前にある「今橋」に彫られた龍の摸刻レリーフを和紙に転写し、さらにそれに裏彩色をして、龍の模様の入った色とりどりのランプを制作するというワークショップを実施。地域の未就学児・小学生、そして一般の来館者が参加。出来上がったランプは11月3日、7日に大原美術館および美観地区界隈に龍の形に並べ点灯。指導には、2000年後をテーマに現代社会を考えるアーティスト柴川敏之氏があたり、倉敷芸術科学大学、就実大学・就実短期大学、岡山大学の学生、大原美術館ボランティアが実施・運営を行った。まなお、この今橋の龍は大原美術館の作品収集にあたった児島虎次郎が、創始者大原孫三郎の干支・辰年にちなんでデザインした。

3. 事業実績

(1) 事業の内容及び日程

7月4日

場所：新溪園

内容：岡山大学、倉敷芸術科学大学、就実短期大学の学生、大原美術館ボランティア「アテンダント・スタッフ」、美術館スタッフ、そしてワークショップの指導にあたるアーティスト柴川敏之氏等が一同に会し、研修および今後の打ち合わせを行う。

参加スタッフ数：38人

7月5日、8日、12日 場所：倉敷市立倉敷西小学校

7月23日 場所：若竹の園

9月24日、27日

場所：倉敷市立倉敷東小学校

内容：2 小学校の全学年、若竹の園の年長組を対象にワークショップを行った。ロープと蚊取り線香を龍に見立て、和紙にローラー拓本技法で転写。裏彩色を施した。主な指導は柴川氏が行い、学生スタッフ等が児童の制作サポートにあたった。

参加スタッフ数：のべ37人

8月21日、22日 チルドレンズ・アート・ミュージアムでのワークショップ

場所：大原美術館

内容：毎夏2日間行う教育普及事業にて、プログラムの一つとして実施。柴川氏およびほとんどすべてのスタッフが参加者の制作サポートにあたった。

参加スタッフ数：のべ41人



大原美術館でのワークショップ

9月4日、5日、11日、12日、18日、19日、25日、26日、10月2日、3日、9日、10日、16日、17日、23日、24日、30日、31日

場所：大原美術館

内容：大原美術館の中庭（雨天は研修室）でワークショップを行う。学生スタッフおよびアテンダント・スタッフをはじめとしたボランティアが、準備、参加者へのコンセプト伝達、制作指導まで行った。

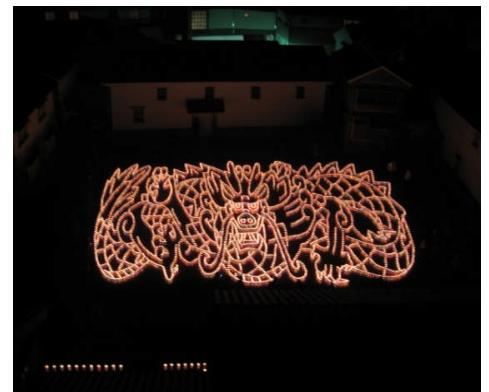
参加スタッフ数：のべ211人

10月20日

場所：倉敷北ケアセンター

内容：依頼があり、高齢者対象にワークショップを行った。

参加スタッフ数：2人



11月7日点灯当日

11月2日

場所：大原美術館

内容：大原美術館中庭に龍の下絵を描く。その他点灯の準備を行う。

参加スタッフ数：7人

11月3日、7日

場所：大原美術館（7日はこれに倉敷川河畔および倉敷市芸文館前）

内容：日中、参加者が制作した作品をランプに仕立てたものを龍の形に5000（7日は7000）個並べ、17:00～20:00まで点灯した。

参加スタッフ数：のべ102人

（2）参加者の数

参加者人数 延べ 約3,006人

内 訳：倉敷市立倉敷西小学校 343人、倉敷市立倉敷東小学校 340人、若竹の園 44人
倉敷北ケアセンター（高齢者） 18人 就実短期大学学生 253人
一般来館者 2008人

（3）事業により作成した印刷物等

「大原美術館の80歳をお祝いしよう！プロジェクト」ポスター 500部

同チラシ 50,000部

同記録集 600部

（4）実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事



朝日新聞 平成22年9月24日



山陽新聞 平成 22 年 11 月 4 日

同様の新聞記事

山陽新聞 倉敷都市圏版 平成 22 年 9 月 5 日

読売新聞 地域版 平成 22 年 11 月 4 日

毎日新聞 岡山版 平成 22 年 11 月 5 日

○テレビ、関連誌等

山陽放送 ニュース 11 月 8 日

倉敷ケーブルテレビ ニュース 11 月 8 日

NHK 月刊岡山トラのアナ 12 月 4 日 午後 7:30-7:58

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

今回のこのプロジェクトで最初の成果として挙げたいのは、当初のスタッフが、友人などを誘って、次々とスタッフが増えていったことである。これは、長期のプロジェクトであったことに起因するが、いずれにせよ、地域住民が意欲的に文化活動に関わるきっかけになったと考える。参加者も口コミで広がり、多くの人々、特に地域の人々、年齢、所属、さらには動機にいたるまでさまざまな人たちが参加してくれたことは「地域連携」の強化になったのではないかと思う。さらに、このワークショップを通じて、大原美術館が地域の文化財産であることも、スタッフおよび参加者に再認識してもらったことも大きな成果であろう。

また、終了後に、学生スタッフやボランティア・スタッフから「非常に貴重な経験ができた」「このワークショップを通じて、多くのことを学び、成長できた」という感想をもらった。このことから、アートを通じてその人が成長するという、美術館の教育普及的な目的は達成できたと感じている。

もちろん課題も残る。一過性のものでなく、いかにして次につなげていくか考える必要があるだろう。11 月 7 日のランプの点灯後、ぜひまたやってほしいという声が美術館の内外で聞かれた。しかし、同じことをイベント的に繰り返すのではなく、このプロジェクトで育った学生やボランティアが次のステップを踏めるような仕組みづくりを目指すことが今後の課題だと考える。